



# 日本植物病理学会ニュース 第54号

(2011年5月)

## 【本学会活動状況】

### 1. 大会について

平成23年度日本植物病理学会大会は、3月27日から3月29日まで東京都府中市の東京農工大学で開催される予定でしたが、3月11日に発生した東日本大震災のため、あわせて開催予定であったシンポジウム、研究会等とともに中止となりました。

### 2. 技術士対応委員会

平成22年度技術士第二次試験（農業部門・植物保護）で12名が合格

平成23年3月7日に平成22年度技術士第二次試験（農業部門・植物保護）の合格者が発表され、次の12名の方が合格されました（敬称略）。

大津悠一（バイエルクロップサイエンス株式会社；日本応用動物昆虫学会・日本農薬学会会員）、公文敬夫（カゴメ株式会社総合研究所）、鍵和田聡（法政大学植物医科学専修；本会会員）、小池英彦（長野県農政部農業技術課）、加嶋崇之（石原産業株式会社 中央研究所；日本応用動物昆虫学会会員）、影山智津子（静岡県農林技術研究所；本会会員）、森 勝（株式会社クレハ アグロ製品部；日本農薬学会会員）、浅井元朗（中央農業総合研究センター；日本雑草学会会員）、森島啓司（JICA ベルー事務所）、黒田克利（三重県農業研究所；本会会員）、米本謙悟（徳島県農林水産総合技術支援センター；本会会員）、松尾広信（北興化学工業株式会社開発登録部；本会会員・日本農薬学会会員）。

現在、技術士（農業部門・植物保護）の合格者は45名となりました。今回、浅井さんが国の独立行政法人から、鍵和田さんが大学から、それぞれ2人目の合格者となりました。引き続き、都道府県や民間企業とともに、さまざまな職場から多くの方の受験をお願いします。平成23年度の技術士第一次試験は平成23年10月10日（月）に行われます。また、技術士第二次試験の筆記試験は平成23年8月7日（日）に行われます。詳細は日本技術士会のホームページをご覧ください。

日本植物病理学会、日本応用動物昆虫学会、日本農薬学会、日本雑草学会、植物化学調節学会は、農業部門・植物保護の技術士の社会での活躍について、積極的に取り組んでいます。平成23年度も多くの方の技術士の誕生を期待しています。

## 【今後の学会活動予定】

### 1. 平成23年度部会開催予定

#### (1) 北海道部会

日時：平成23年10月13～14日

場所：北海道農業研究センター（札幌市）

#### (2) 東北部会

日時：平成23年10月31日～11月1日

場所：青森市民ホール（青森市）

#### (3) 関東部会

日時：平成23年9月15～16日

場所：文部科学省研究交流センター（つくば市）

#### (4) 関西部会

日時：平成23年10月1～2日

場所：サンポートホール高松（高松市）

#### (5) 九州部会

日時：平成23年11月9～10日

場所：大分県労働福祉会館（大分市）

### 2. 第5回植物病害診断研究会

日時：平成23年10月31日～11月1日

場所：青森市民ホール（青森市）

詳細：巻頭綴じ込みをご覧ください。

## 【書評】

鳥山重光著「黎明期のウイルス研究—野口英世と同時代の研究者たちの苦闘」

A5版177頁：2008年10月 創風社

2,100円（税込み）

ISBN 978-4-89352-155-5

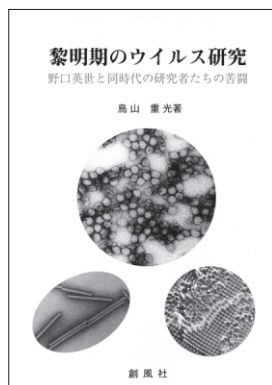
鳥山重光著「水稻を襲ったウイルス病—縞葉枯病の媒介昆虫と病原ウイルスの実像を探る—補遺：高田鑑三の論文「萎縮病稲試験成績」(1895)の再評価」

A5版 306頁：2010年10月 創風社

3,675円(税込み)

ISBN 978-4-89352-169-2

イネ科植物のウイルス病とウイルス研究の第一人者である鳥山重光博士が上記の2冊を上梓されたので紹介させていただきます。



「黎明期のウイルス研究」の第1部「欧米と日本における黎明期のウイルス研究」では、ウイルス学の教科書で必ずと言ってよいほど記述されている、ウイルスの最初の発見者は誰かという問題を取り上げ、氏の考えを一般向けに親しみやすい言葉でまとめている。一般向けといってもウイルス学的知見をしっかりと網羅しており、分野外の研究者がウイルス学の発展の歴史を知るには優れていると言えよう。第2部「野口英世とロックフェラー医学研究所」では、第1部で詳しく語られているStanleyを生み出したロックフェラー医学研究所にゆかりのある野口英世の人物像とその研究業績について詳しく紹介されている。最近では野口英世に対する世間の評価がやや下がっているようであるが、野口英世の実像が生き生きと描かれており、科学者「野口英世」の業績を再認識するための本として推奨したい。



「水稻を襲ったウイルス病」の第1部「イネ縞葉枯病の突発的な流行と媒介昆虫ヒメトビウソカ」では、明治に始まるこの病害の流行、媒介昆虫発見、抵抗性品種の育成などについて多くの資料や調査に基づき、これらの歴史を詳細に紹介している。また、イネ縞葉枯ウイルスを昆虫ウイルスとする視点から、この病害の発生生態を論じている力作である。

第2部「奇異なRNAウイルス *Rice stripe virus*」は鳥山氏のこれまで発表された研究論文や総説では窺い知ることのできない研究の苦労話や研究に対する姿勢が示されており、イネウイルス研究者だけでなく、広く植物病理学を志す大学院生や学部生に薦めたい。さらに、補遺の高田鑑三

の論文「萎縮病稲試験成績」の再評価では、鳥山氏は滋賀県が明治27年に刊行したこの冊子を購入され、我が国における植物ウイルスの虫媒伝染発見の歴史について一石を投ずる論証をされているので、是非お読みになることをお勧めする。(桑田 茂, 明治大学)

#### 【学会ニュース編集委員コーナー】

本会ニュースは身近な関連情報を気軽に交換することを趣旨として発行されております。会員の各種出版物のご紹介、書評、会員の動静、学会運営に対するご意見、会員の関連学会における受賞、プロジェクトの紹介などの情報をお寄せいただきたくお願いします。

投稿宛先：〒170-8484 東京都豊島区駒込 1-43-11

日本植物防疫協会ビル内

学会ニュース編集委員会

FAX: 03-3943-6086

(協会ビルは下記へ移転しますので、6月以降はそちらへ、〒114-0015 東京都北区中里 2-28-10)

または下記学会ニュース編集委員へ：

加来久敏, 畔上耕児, 濱本 宏, 植草秀敏, 宮田伸一  
各委員宛

#### 編集後記

東日本大震災に罹災された方々に心からお見舞い申し上げます。この大震災によって平成23年度大会も中止となり、平成23年度の学会活動にも大きな影響が出ております。しかも大震災の被害に加えて度重なる余震や原発問題で我が国の経済はじめ根幹に関わる問題に発展しています。早く復興が実現し、活発な学会活動が再開されることを祈ってやみません。さて、このような状況から、学会ニュースも部会など学会活動の予告と技術士関係の記事のみとなってしまいましたが、技術士二次試験では合格者が順調に増えて同慶の至りです。本年度も多数の方々の受験をお願いしますと同時に、合格者が早く目標の100名に達することを祈念いたします。

(加来久敏)